

天候が恢復しても 上作は絶望

稻熱病が散發し 盲く行つても普通作

土用入り後の天候は入梅に逆戻りのやうな陰鬱な氣候が續いて稲作に少からず影響ある模様だが現に稻熱病が各地に散發し螟虫の發生も多いやうだ稻熱病は昨今のやうな天候の續く限り恢復の見込みがない土用に入り暑さと日照りを受けて俗にモテるといつてゐる分業

中央へ流れ出した 資金を地方へ還元

地方財界の刷新に就て 金成農銀新取締役語る

さる二十二日日本縣農工銀行株主總會において新に取締役に當選就任した金成通氏はその後重役會その他總會後の用務を片づけ二十五日はじめて歸郷したので同日植田町に氏をおとづれると農銀重役としての抱負に就き植電の社長室において次ぎの如く語る

今日の 苦況から匡

救すること蓋し決して不可能ではないと信する即ち最近の財界動搖以來地方から中央へ流れ出した資金は實に千六百萬圓と註せられる程でこの際の善處策としてこれが地方還元策として二千萬圓の

農工債 を起し中央

の金を移して以て地方經濟界に一味の潤ひを點せしむるに存すると思ふ而もこの

軍事上の研究に 平から鳩を飛ばす

軍用鳩調査會の計畫

中野町の軍用鳩調査委員會では昨年中平町十五丁目町有空地に鳩舎を設け陸軍通信學校附にして軍用鳩調査委員幹事たる江崎大尉出張監督の下に一週間乃至三週間に亘る閉置鳩(板園ひを以て外界の展望を庶断せるもの)を使用し

前後數回 の試験飛

翔を行ひ軍事上の研究に資する處あつたが本年も亦數回の好成绩なりしに鑑がみ再び同所を基點として試験

目的の遂行に資するに制度の改正を以てし放漫に流れざる限り出来るだけ簡便敏捷に貸出しを行ひ飽くまで地方民の利便を目標として銀行本来の趣旨

目的に 副ふべく努

力し度いと思つてゐる尙取締役に選任されると同時に頭取就任に關しても、夫れ推挽交渉を受けたが今

近藤博士を加へて 坑内の施設を視察

仙臺鑛山監督局から 常磐各炭鑛地に出張

各種鑛山中操業の危険率最も甚だしいのは炭鑛業で毎年鑛夫の傷病者中約七割は炭鑛夫を以て占められてゐる状況なのでこれが對策に關しては

從來とも 熱心研究

を續けられてをたが仙臺鑛山監督局では本年度よりいよゝその實地研究に着手することになり來月上旬から局員數名を管内常磐炭鑛地方に派遣して先づ坑内

東北帝大 より近藤

博士が一行に加はり専門的立場から指導研究を行ふ豫定である

優勝旗爭奪 水上競技

江名濱にて 石城郡江名町小學校主催同

間半から四時間位のものである閉置鳩を使用するものは戦時の場合何處から飛ばしても間違つたかぬため練習で前回の試験成績による途中一二羽の行衛不明になつたものをのぞき他はことごとく完全に着いてゐる昨年は試験中の終末期に恰も獵季に入つたので途中射落さ

鈴木選手の平町到着は 來る二十九日午後七時

平銀行前のゴールに入る

既報去る廿日青森市を出發東京迄の長距離マラソンの壯圖に着いた日本齒科醫專の鈴木嘉政君外一名は本日平町に到着する豫定であつ

たが途中降雨の爲めに惱まされ昨夜仙臺に到着元氣頗る旺盛意氣天を衝く概を示し平町へは廿九日午後七時到着平銀行前のゴールに入

日直に農工銀行の頭取たる事は自分が生命を賭してかゝつてゐる植田電氣や磐東銀行の將來に對して決して忠實なる所以でないと思ひ先輩

知友の 好意は誠に

肝銘措かざる處であるが敢てこれを受けなかつたわけである

眞夏に入つて 乗 人員激増

平驛最近狀況

海水浴の出盛り期節に入つて平驛その他各驛共に乗客數の増加したることは目前の事實であるが而も過般臨時列車増加運轉の結果平驛における六月及七月廿五日までの實績は(六月)乗車人員五七、七九二人降車人員五五、八五四人(七月廿五日まで)乗車人員五三、〇六一人降車人員五二、八四〇人これに依つて見れば平均七月に入つて非常な増加を來しつゝあるが驛員の談に依れば七月も殘部數日において約九千以上の乗降人員があるものと豫想してゐる

東朝の八代公行氏 文筆生活を捨て、 郷里鹿島村に歸る

郷里鹿島村に歸る

東京朝日新聞平支局主任八代公行氏は家事上の都合に依つて廿數年の長日月に亘る文筆生活を捨て鹿島村に歸つて後半生を送る事になつた、同氏は温厚篤實の士として社會の信認を博し殊に業務に精勵格勤眞に模範的の操業業者であつた事は世の既に知る處在平同業者は同氏多年の勞を慰むべく記念品を贈呈せんと寄々協議中である。尙ほ後任には

埼玉縣浦和町の同社駐在員淺野惠四郎氏が不日赴任し來る等である因に八代氏の新聞記者生活は大要左記の如くその半生を福島民報と東京朝日の兩社に献げた譯である

△明治卅五年四月福島民報社本社誌△同四十二年十二月同社平支局主任△大正四年一月より民報社員の傍ら東京朝日の通信を囑託さる△大正九年八月民報社を辭し東京朝日に入社今日に至る

掃立が多い

一種の奇現象

石城郡地方の夏秋露は桑園に害虫が發生した結果掃立も従つて減少するものと豫想されてゐたが今回縣農會に於て調査した處に依ると前年度の一萬六千七百餘枚と殆ど大差なく或ひは原露種一萬七千枚を突破するのではあるまいかと豫想されてゐる、目下夫れ掃立の準備中で夏秋露の出廻り期は八月下旬から九月月上旬迄が安くそれに桑園に被害があるにも拘らず掃立が多いのは一種の奇現象であると云はれてゐる

豫想に反して